

患者参加型医療に関するアンケート結果報告

当院では、医療の質と安全な医療は、患者さんと医療者が一緒になって、作っていくものと考えています。そのためには、患者さんと医療者の間で、お互いに考えていることや感じていることを共有し、理解を深めながら医療を進めていく「患者参加型医療」が大切だと考え、取り組みを進めてきました。この度、患者さんや市民の皆様にとって、ご自身が医療に参加することをどれくらい重要と考えているか、また、ご自身の医療にどれくらい参加しているかをお伺いしました。

患者参加型医療とは

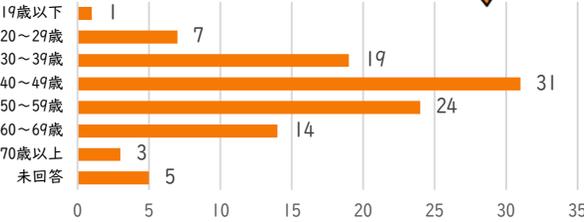
患者さんと医療者が協力しながら一緒に医療を進めることです。患者さんが自分の疾病や医療を十分に理解し、主体性をもって医療に参加することで、医療の質と安全の向上が期待されます。

調査方法

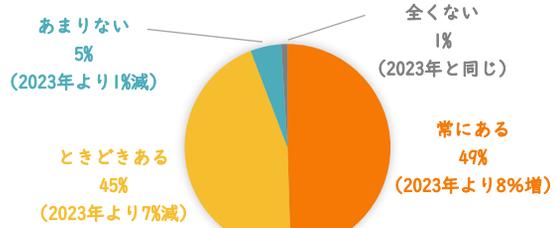
実施期間：2024年8月1日～8月30日
質問数：11問
回答方法：紙面（院内）またはGoogleフォーム
周知方法：院内掲示、ホームページ、SNSで周知

回答者の年代

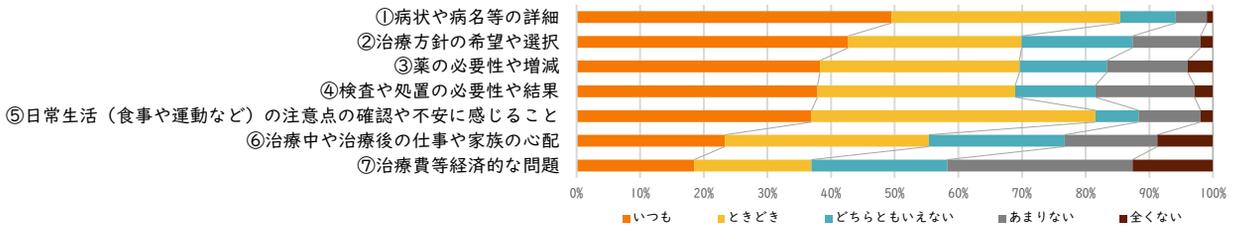
104名の方にご回答いただきました



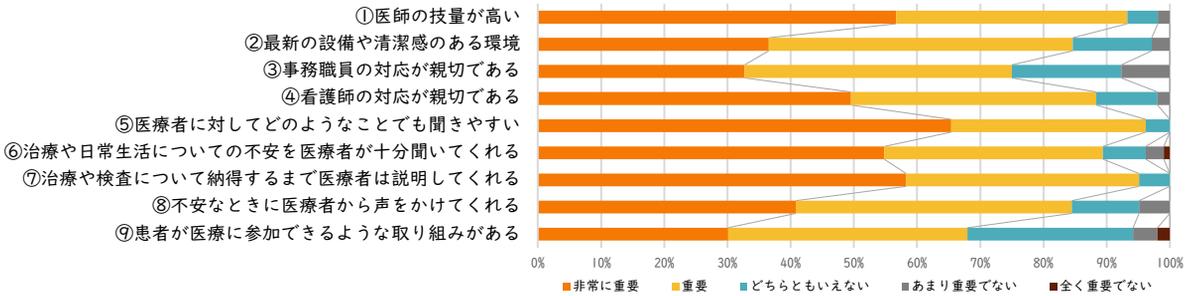
Q. 病院受診時に、医療者に質問したり、自分の考えや気持ちを伝えたりすることはありますか



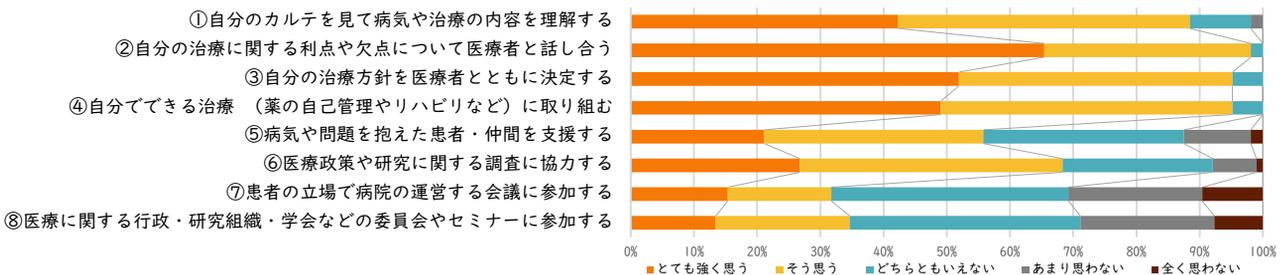
Q. 自分が納得できるまで質問することや、自分の考えを伝えることができていますか



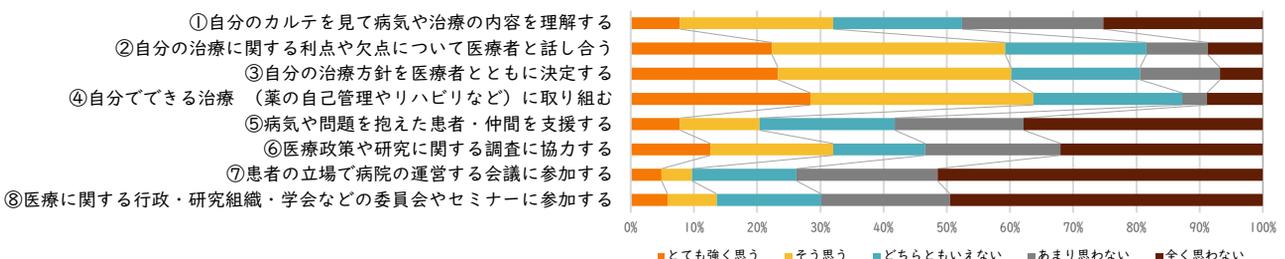
Q. 病院受診時、以下の項目はあなたにとってどれくらい重要ですか



Q. 患者参加にして、あなたはどのくらい関わりたい、または参加したいと思いますか



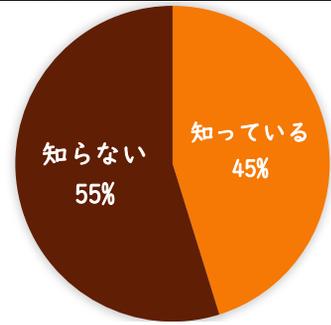
Q. 患者参加に関して、あなたはどのくらい関わっている（参加している）と思いますか



インフォームド・コンセントの録音 (IC録音)について

当院では特に手術等の危険性が高い医療行為に際して、患者さんやご家族の理解と意思決定を支援するため、ご希望に応じて、IC録音を行っています。

Q. 当院のIC録音の取り組みを知っていますか



Q. どのような内容や場面で、IC録音を利用したいと思いますか

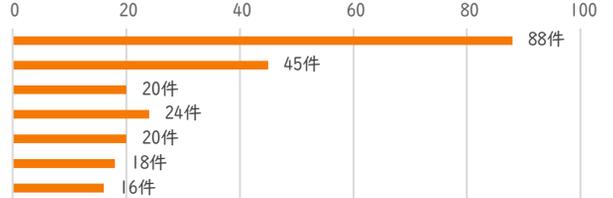
①病名・病状について (複数回答可)

手術や処置の実施により、合併症が起きた場合の説明について
手術や処置の前に、その手術や処置に伴うリスクの説明について
悪性腫瘍など生命に関わるような場合の説明について
一過性の感染症などで、入院での治療を要する場合の説明について
一過性の感染症などで、外来での治療を要する場合の説明について



②検査について (複数回答可)

心臓カテーテル検査など心身への負担や危険度がある検査
病理・細胞診検査
微生物検査
B型肝炎、C型肝炎、HIVなどの感染症検査
造影剤を用いない画像検査 (レントゲン、CT、MRI)
心電図や超音波などの生理検査
血液検査・尿検査

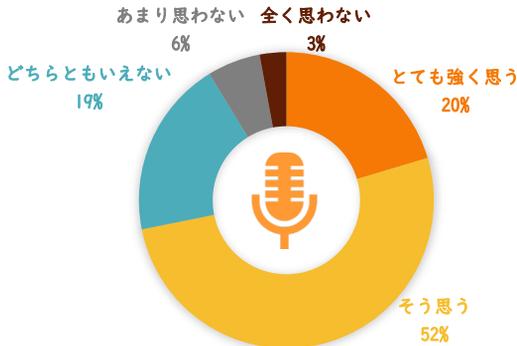


③治療・処置について (複数回答可)

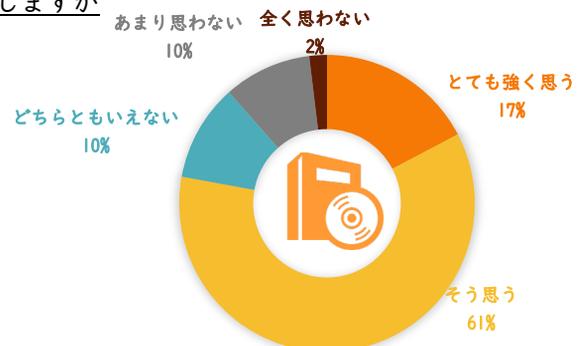
全身麻酔を用いる処置・手術
局所麻酔を用いる処置・手術
創部処置や吸引など、心身への負担や危険性の程度が比較的軽い処置
悪性腫瘍に対する化学療法など、副作用が無視できない投薬・注射
通常の投薬・注射



Q. IC録音を利用したいと思いますか

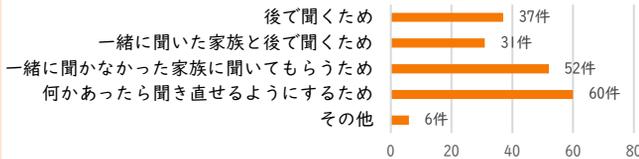


Q. IC録音を実施した場合、録音データのコピーを希望しますか



Q. IC録音データを希望する/希望しない理由を教えてください (複数回答可)

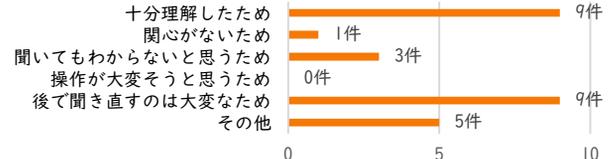
【希望する理由】



その他の内容(原文のまま)

- 友人の医師にcheckして貰う為
- 1型糖尿病で全集中で話をその場で理解不可だから
- 親世代の付き添いをしていて その場ではぼんやり聞いていて理解していない事が多いので 改めて一緒に聞いたり わかりやすく説明したりする為にあると便利だと思う
- 医者からの心ない言葉や暴言等を削除せずに全部もらいたい
- 軽率な発言抑制効果を期待する
- 医療者の声が聞き取りにくかったり、聞き逃したりした場合のために

【希望しない理由】



その他の内容(原文のまま)

- 現在の説明同意文書で充分であるため
- 3回全身麻酔で手術をして頂きましたが今までの方法で十分理解し、納得のうえ、治療を受けたので。医療者の負担になりそうだから、しなくてよい。
- 聞き返した内容が、ショックであり心身の負担になる恐れがあるので。
- 自分で録音できるので、敢えてCD-Rにコピーされても、聞くことをしないと思います。(CD-Rをどこで再生するのか…)
- CD-Rだと利用しづらいため

まとめ

- 病院を受診する際に、医療者へ質問したり、自分の考えや気持ちを常に伝えている割合が増えました。
- 当院でインフォームド・コンセントを受ける際に、録音を利用したいと思っている割合が72%でした。
- 今回の調査により、医療者は、患者さんに分かりやすい説明を行ったり、質問しやすい雰囲気を作ったりすることを心がけ、カルテの閲覧やIC録音などの取り組みを、患者さんへ広くお伝えしていく必要があると考えます。